

生徒健康サミット

各校のみなさんが、16人のグループになり、テーマについて意見を交換し、その解決策を探求しました。



- A** 病気の予防・体力づくり
- B** 心の問題
- C** 食生活
- D** 喫煙・飲酒・薬物
- E** 命・性・エイズ



18 千葉県茂原保健所

(別紙4)

平成12年度「母子保健強化推進特別事業」事業計画書

議題(調査)名	千葉県茂原保健所	担当部(局)課名	地域指導課
---------	----------	----------	-------

1 実施事業の内容等

事業の名称 (事業開始日)	実施要綱の3 による実施内 容の区分	実施(予定)事業の内容
人工妊娠中絶 に関する 意識調査 (平成12年4月～)	(1)	<p>茂原保健所管内の人工妊娠中絶の届出数は平成9年は130名、平成10年は177名と増加している。/ その中でも10代の届出数は、平成9年では1割を占めている。また、10代の中でも18歳未満が、平成9年は7名・平成10年は4名・平成11年9月末現在すでに6名の届出がある。18歳未満の中でも14歳の届出があり、低年齢化傾向を示している。</p> <p>そのため、性に関する情報が氾濫している社会状況をふまえ、管内の高校1年生1,700名がどのような考えを持っているのかを把握し、自分たちの問題としてとらえられるようにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既存の資料の中で調査項目案作成。 2. 管内の産婦人科医師と、意識調査内容について検討。 3. 管内の6つの高等学校に事業内容説明、意識調査実施依頼。 4. 各高等学校の承諾を得た後、学校毎に1年生に対して意識調査を実施。 5. 意識調査後集計委託。 6. 集計結果について管内の高等学校の校長・養護教諭・産婦人科医師をまじえて今後の事も含めて、検討する。 7. 生命の尊さ、妊娠経過、中絶が体に与える影響等衛生教育を実施。高校生が自分たちの問題として考えることができるようにする。

事業の実施場所	事業を実施する 際の担当者等	事業を実施することにより期待される効果
千葉県 茂原保健所	地域指導課	管内の高校1年生の人工妊娠中絶に対する意識を把握することにより、高等学校・医療機関と連携をとりながら、正しい知識の啓発活動が開始でき将来的には中絶件数の減少が期待できる。

はじめに

母子保健強化推進事業の目的は、社会の少子化、核家族化、また女性の社会進出等に伴い子どもが健やかに生まれ、育つための環境づくりの推進を促進し、地域の実情に応じた専門的、広域的な事業を整備するとともに、地域に根ざした自主的な母子保健行政をさらに充実強化させることにある。

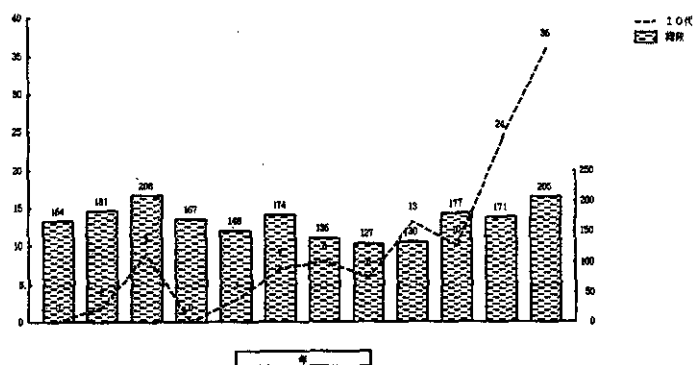
当保健所管内では、近年、10代の人工妊娠中絶の届出数が急増しており、また、低年齢化していることから、高校生の人工妊娠中絶等に関する意識調査及び正しい知識の啓発普及を目的として本事業に取り組んできた。

<保健所管内の人工妊娠中絶の届出数は下表のとおりである。>

人工妊娠中絶届出状況10歳代の割合

年	総数(人)	10才代(人)	割合%
10	177	10	5.6
11	171	24	14.0
12	205	36	17.6

過去12年間の人工妊娠届出数及び10歳代の届出数の比較



目的

高校1年生の性に対する意識調査を実施し、その結果をもとに、高等学校・医療機関との連携をとりながら、正しい知識の啓発活動を実施し、生命の尊さ及び人工妊娠中絶や性感染症等が身体に与える影響を高校生自らが自分の問題として考えることができるようにする。

方法

意識調査 (アンケート)
 (1) 対象 管内の全高等学校の1年生 1569人
 (2) 調査時期 平成12年12月
 (3) 調査結果の分析 平成12年12月～13年1月

健康教育 (思春期講演会)
 意識調査の結果をふまえ、各高等学校に、又希望する中学校へ健康教育を実施
 (1) 対象 中学校2校-生徒及び教師 606人
 高等学校5校-生徒及び保護者・教師 1350人
 (2) 教育内容
 ・生命の尊さ
 ・人工妊娠中絶が身体に与える影響
 ・避妊の方法
 ・性感染症の知識
 (3) 評価方法 講演会終了後聴講した全員に感想文の記入を実施させた

意識調査まとめ

- 今まで受けた性に関する教育は「知っている」「少し知っている」を合わせると70～90%の回答があった。
但し初経・精通等男女の違いがあるものについては、お互いよく理解はできていない
またマスターベーションの意味さえ知らない女子が24.5%いた
- 性感染症については、男女の有意差があり男子のほうが知らなかった。
- 性について知りたい項目は、1、性感染症42.5% 2、避妊について38.7% 3、自分の身体と他人の身体との相違点について38.3%、4、男性と女性の心理や行動の違いについて34.9% 5、異性との交際の仕方について34.4%の順になっている。
- 性知識の情報源は1、学校の授業（生物・家庭科・保健）70.9% 2、同性の友人・先輩59.2% 3、テレビ・ビデオ・映画40.9%であった。
女子は主に先生・両親・兄弟・姉妹からの情報（人）で、男子は本・辞書・インターネットからの情報（物）であった。
- 高校生の男女の良い交際程度は、1、デート 2、何でも話せる付き合い 3、キス 4、手をにぎる 5、抱きしめるがそれぞれ50%以上を占めた。
「性交」については、39.5%の高校生が良いと答えている。
フリーアンサーでは、「個人の自由」という回答が50%をしめていた。
- 高校生の性交渉については、1、お互い納得していれば良い 2、責任が取れば良い 3、愛し合っていれば良いが3～4割あったが、質問のなかでの「どんな場合でもいけない」「結婚が前提ならよい」についてはわずか5%程度であった。
- 身体の関係になるきっかけは「好奇心から」は男子に多く、「断れなくて」は女子に多い。
- 身体の関係になる場合、妊娠について「気になる」は56.9%「少し気になる」は25%。
エイズ・感染症について「気になる」は54.4%「少し気になる」は28.2%であった。
「気にならない」は男女に有意差があり男子の方が多かった。
- 避妊方法で知っているのは、主にコンドーム・ピル・膈外射精であった。
- 避妊が実行できない理由としては 1、めんどくさい 2、言い出せない
で、言い出せないは女子に多い。
- 高校生の人工妊娠中絶への考え方としては1、命は大切だからいけない39.3% 2、やむをえない26.6% 3、個人の自由23.5% 4、心や身体に害があるからいけない16.9%であった。
- 性について悩みは64.9%のひとが「無し」と答えている。
相談相手は圧倒的に「同性の友人」が多いが、無しもまた34.2%であった。
- 性に関する相談場所については「知らない」が59.9%であり、次が電話相談で25.3%であった。
- 高校生の「性」のイメージは、愛にみちたこと・本能的なこと・自然なこと・人間的なこと・大切なことであった。

健康教育結果

思春期講演会のまとめ

目的に添って、意識調査の結果をふまえ「生命の尊さ及び人工妊娠中絶や、性感染症等が身体に与える影響を高校生自らが自分の問題として、考えることができる様に、“正しい知識の啓発”を実施する」こととした。

実施状況は下記のとおり。

1 内容 「思春期講演会」

講演：主として妊娠の成立、避妊の具体的方法、性感染症について及び生命の尊さについて

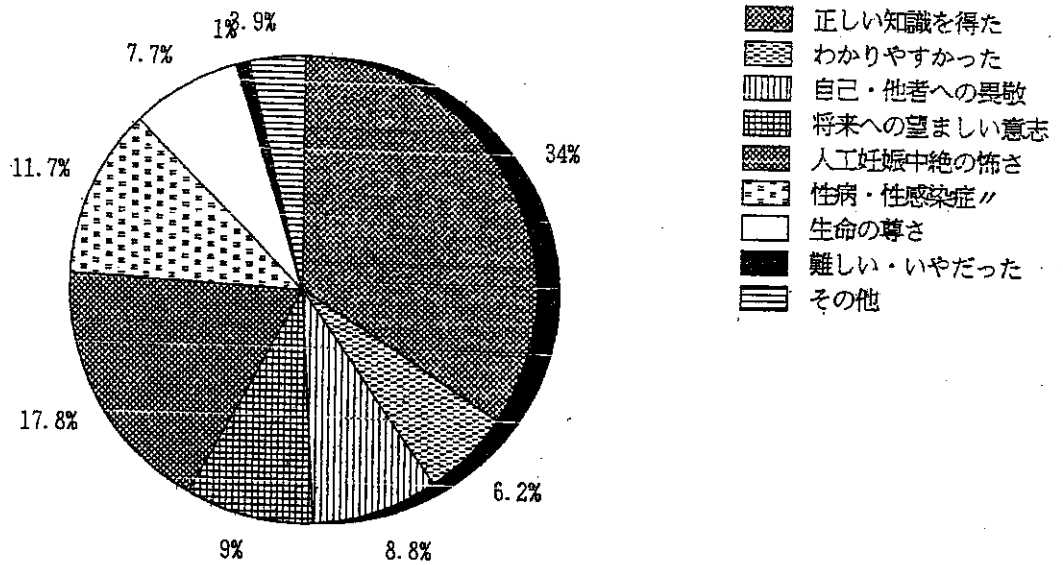
報告：人工妊娠中絶に関する意識調査の結果報告

2 対象者	中学校 2校 - 2・3年生及び教師	606人
	高校 5校 - 普通科3校 1～3年生及び保護者・教師	1190人
	生活科学科1校 1～2年生及び教師	80人
	定時制1校 1～3年生及び教師	80人

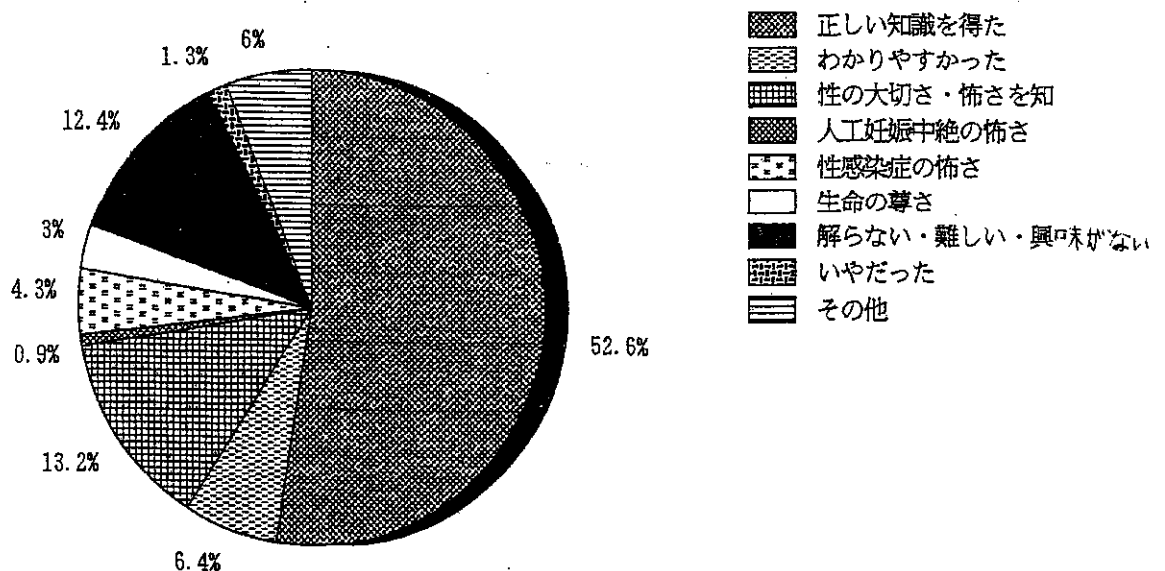
3 評価方法 思春期講演会終了後聴講した生徒全員に対し、感想文の記入を実施してもらい、到達部分を明らかにした

4 結果

高校生



中学生



5 まとめ

- 1、健康教育の成果は下記の4点であった。
 - ①知識の増加（正しい知識を得た、わかりやすかった）
 - ②自己・他者への畏敬や将来への望ましい意志を得た
（自分の将来を大切にしようと思った。相手のことを考えようと思った。
よく考えてから今後は行動しようと思う。きちんと性を受けとめたい等）
 - ③人工妊娠中絶や性病・性感染症の危険性を理解し、回避的思考が得られた
（避妊方法及び感染予防の方法が具体的に理解できた。今まで間違っていた知識
をもっていたが、正しく修正できた）
 - ④生命の尊さが理解できた
（命の大切さがわかった。後悔しない生き方をしたい。）
- 2、中学生では、性の知識として「知らなかったので勉強になった」「今までの情報が間違っていた」「性の大切さや怖さがわかった」という大半の感想を持った反面、「解らない、難しい、興味が無い」「いやだった」など、少し抵抗があるとの感想を持った生徒もあった。
今後の教育での配慮が必要である。
高校生では、「性の正しい知識を得た」に加え「自己・他者への畏敬の念」や「将来への望ましい意志の決定」「生命の尊さの確認」等の感想が増えてくる。これは、中学生では性についてまだ具体的でなく、高校生については性行為が身近に感じられていることがわかった。
- 3、外来講師であると、生徒達も興味を持ち、耳を傾ける。
感想文の中には助産婦への仕事の理解等、話す人の職業に興味を持ち理解することがわかった。
- 4、教育媒体のパンフレットについては、学校の教諭からは「過激」との発言も飛び出したが、生徒たちは講義の最中よく見ており、感想も「プリントがわかりやすかった」という声もあり、更には、スライドがよい、もっと教材を使ってほしいなどの、視覚に訴えた教材で講演してほしいとの要望があったりした。
- 5、学校では、この思春期健康教育を、夏休みまえの生徒指導の場として設けている様であるが、保護者会と同時開催と工夫をしたりする学校もあり、親の教育の場ともなっていることに、また一つ効果が期待できた。

考 察

1、低年齢期の教育とより具体的な指導

この管内において、高校生の性の意識は情報誌・テレビ等マスメディアの影響により、全国レベルと差はなかった。

しかし、人工妊娠中絶については命は大事、心や身体に害があるからいけないと否定的で、生命尊重・命の重さ・自分を大切にしていこうという意識はあると判断できる。

また、健康教育等にて生徒の生の声を聞いてみると、「中絶は、薬をのめば可能」「話を聞くまで、身体に大きな影響があるなど判らなかつた」など、まちがった知識をもっているという状況であった。

意識調査の中で、性交のきっかけは「好きだから、愛しているから、その場の雰囲気、好奇心から」などと回答があり、現状として、準備ができない段階で避妊等の知識が不十分なまま関係をもってしまうなど考えられた。

そこで、早めの性教育、しかも生命尊重を中心としたより具体的な指導が必要であることがわかった。

2、情報の発信者（場）としての確立

若者の情報は不十分であり、どこへ相談したら良いか、どこから情報を収集したらよいか不安に思っているところもある。

避妊具の使い方、男女の心理の違い等知りたいことはたくさんあった。

相談相手に保健の先生と調査結果が出たことにより、学校保健分野で相談の充実が図られたり、関係者の意識の高揚が図られたりと大きな変化が生まれた。

また、情報を提供する側の専門職の中でも、性に関する情報不足や知識の不足を感じているところもあり、勉強会等実施していく必要性を感じた。

その他、地域の中の相談の場等は知られていないこともわかり、保健所を初めとして各関係機関業務のPRをし、積極的に学校保健と協力していくことが必要とわかった。

3、学校・医療・保健（地域）との更なる連携が不可欠である

医療関係者の話し合いのなかで「校医」の役割等注目されたが、学校教育のなかでカリキュラムとしての位置づけや、こどものみでなく親や地域も含めた教育の必要性などが課題として出された。

そのためには、学校という枠を越え、学校関係者と地域の保健医療が協力・連携してゆくことが必要と再認識できた。

19 山梨県増穂町

事業内容区分	外国人母子への指導体制の整備事業
目的及び事業 実施により期 待される効果	<p>外国人母親、特に乳幼児を抱える外国人母は言葉の問題や外国人であることの周囲の偏見等により行動範囲が極めて狭くなり、出身国が同じでありながらも知り合うことの少ない傾向にある。相互に交流する機会づくりをすることにより、仲間づくりへの支援を行ない育児等についての情報提供や指導の機会とする。さらに、日々の育児と習慣の相違する異国での生活のストレスや、多くの外国人母親が持つ孤立感を解消する一助とする。</p> <p>又、自主グループづくり活動に移行するよう支援し、新規の外国人母親も参加でき、早期に地域の中で安心して積極的にすごすための支援の機会とする。</p>
実施方法	<p>会場…保健福祉支援センター スタッフ…福祉保健課・町民課・教育委員会・国際交流係 内容…グループワーク(交流)</p> <p>増穂町保健福祉教育事業についての説明と意見交換 悩み・希望についてのディスカッション 他</p> <p>概要</p> <p>多国籍に一同に交流会を行ない、国別に通訳を雇い上げてグループ毎の交流を行なう。</p> <p>また、母親自身が各種制度やサービスの理解ができるように、母子保健、教育、福祉等についての説明及び質疑応答の時間を設ける。</p> <p>さらに、町内の先輩外国人母との交流もあわせて行なう。</p>
実施回数	13年度中2回(10月及び3月)
対象	<p>増穂町に在住の児を持つ外国人母親及び妊婦 現在把握 26人</p> <p>未就学児…中国4 タイ4 ブラジル7 ペルー4 台湾2 マレーシア1 フィリピン4</p>



第2回 外国人母の会報告 dai2kai gaikokujinhahanokai houkoku

9月16日(日) 第2回外国人母の会を開催しました。当日は26人の参加があり新しい仲間もふえました。
9gatu16niti nitiyoubi dai2kai gaikokujinhahanokaiw okaisaisimasita. toujituha26nin no sankagaari, atarasii nakamamo fuemasita.



odangowo
marumeteirutokoro



お月見にちなんで、お団子作りをしました。ボランティアで中沢さんと大久保さんがお団子作りを教えに来てくれました。
odango wo tukurimasita. Ookubosan Nakazawasan ga boranthiade kitekuremasita.

外国人母の会の名前が決まりました。MMIE
(masuho mothers international exchange) です。
よろしくおねがいします！
kono kai no namaegakimarisita. MMIEdesu yorosikuonegaisimasu!!



今回は、国際交流協会と事務局の方もご出席くださり、みなさんの要望を受けて、開催されることとなった「日本語教室」について、時期や場所、曜日など希望を聞いていただきました。10月から週1回始まることとなりました。みなさんがんばってください。
konkaiha matino kokusaikouryuukyokukai to jimukyokunokataga sankasitekudasari minasan no kiboude surukotoninatta 「nihongokyousitu」 nituite komakanakibou wo kiite kudasaimasita. 10gatu kara syuuni1 kai de hajimarukotoni narimasita

左端の佐藤さんはスペイン語の教師です。県内でいろいろな外国人のお母さんたちの相談にもものっている方です。今回は3カ国の国の絵本を持ってきて見せてくれました。

hidarino satousan ha supeingo no sensei desu.
iroirona gaikokuno hito no soudan nimo notteirukatadesu ehon wo mottekitekuremasita.



次の外国人母の会(MMIE)は 2002年3月10日(日)午前10時~12時に予定しています。各国の絵本を読みあったり、フィリピン出身の方々がフィリピン料理を作ってくださいることになりました。ぜひ皆さん参加してくださいね。



tugino MMIE ha. 2002/3/10 AM10kara ni kimarimasita. iroirona kuni no ehon wo yondari firipinsyussin no minasanga ryouri wo tukuttekureru yoteidesu. minasan sankasitekudasaine matteimasu!!

20 大分県竹田市

事業名：外国人母子への指導体制整備事業

1. 外国人妻の会の開催

<概要>

毎月1回開催

外国(現在フィリピン・韓国・中国・ドイツ・ブラジル・マレーシアの6カ国)から来日して竹田市内で生活している既婚女性を対象として、日本の文化・生活習慣やお互いに出身国の文化を学ぶ。

<目的>

地域との交流により日本の文化・言葉などを学ぶ。

母国語を話す機会、また情報交換を行う機会になる。

相談窓口として保健婦が関わり、個別指導を実施することにより生活の中での不安の軽減をはかることで心のケアにつながる。

<活動内容>

別紙計画書添付

<効果>

時間的な余裕があり、個別に情報を得ることができる。また、面識ができ会員も保健婦などと気軽に話せるようになり、母子保健事業の推進が図りやすくなった。

組織化することで個人ではできなかった他のサークル(子育てサークル・食生活改善推進協議会など)との交流を図ることができた。

2. 子育て支援ネットワークづくり

<目的>

子育ての支援ネットワークをつくることにより、各関係機関の役割や機能が明確になり、支援がスムーズに実施される。

子育てボランティアを育成し、地域の育児力を育てる。

<実施内容>

母子保健に関わる関係者が定期的集まり、情報交換を行う。(実務者部会)

子育てボランティアを育成し、地域に外国人妻などの理解者・支援者を増やす。

<効果>

母子に関わる関係者が情報を共有しやすくなった。

ボランティアを育成することにより、身近に相談者ができた。

3. 生活情報ガイドブックの作成

<目的>

竹田市で生活する外国人に対する支援として、ガイドブックを作成し、情報を得やすい環境をつくる。

<実施内容>

市内の高等学校英会話部の協力を得て、ガイドブックを作成。

<効果>

高校に協力を依頼したことで、学生との交流をはかることができた。

会員に好評で、利用している。

竹田市に住む外国人のための
FOR FOREIGN RESIDENTS OF TAKETA CITY

Daily Living Guide

生活情報ガイド

